

Title	経済学の科学的性質の変遷 (下)
Sub Title	
Author	大谷知, 昇
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1916
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.10, No.1 (1916. 1) ,p.95- 113
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19160101-0095

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

原則を確認するの規定を設く。但し議事規則に依りて之が例外を規定すること猶帝國議會に於ける議事公開の原則が議院法第三十六條に依りて拘束せらるゝが如くすべし」

是を以て議院法第三十六條の規定が疑もなく適法にして有效なるを斷言し得べし。而して帝國憲法第二十二條の規定はフランクフルト帝國憲法第三條と同様に解釋せらる可きものとす。即ち議院、而して獨り議院のみ、従つて帝國議會のみ議事規則に依りて秘密會の條件を定むることを得べしと解す可きなり。尙ほ終りに一説有り、議事を公開するを否とを決定するは議會の特權にして、議院獨り之を處決し得べしとすることが至當にして、又無制限に支持す可きものは政府の最早や疑ひもなく認めざる所なりと。帝國憲法第二十二條の規定に依りて(議事規則の排除し得る)拘束を帝國議會に加へたりとなすは支持す可からず。帝國議會は實際に於

て斯の見解を採らず。一九〇〇年三月十七日の秘密會は立法的決議を遂げたり。而して是れ正當なりき。何となれば帝國憲法第二十二條の規定は帝國議會の活動を制限したるものにあらずして、却て之に行使の自由を有する特權を附與したるものなればなり。されば帝國議會は憲法第七十九條の支配を受くる普魯西の兩院よりも更に進歩せるものと謂ふべし。(註七)如何となれば後者に於ては秘密會の條件は憲法に於て規定せらるゝにも拘はらず、前者に在りては議事規則に於て規定せられ帝國憲法之を規定せざるが故に帝國議會は憲法を變更することなく、又政府の同意を俟たずして秘密會の條件を變更するを得れば也。帝國議會は常に「議事規則の主人」たり又従つて議事公開の例外規定をも自主的に決定し得るものとす。

(註六) 州參事院は其初單に諮問機關たるに過ぎざりしも後帝國法律に依りて議決權を得たれば各聯邦の議會

と類似するに至りしなり。

(註七) 普魯西憲法第七十九條に規定する所左の如し

Die Sitzungen beider Kammern sind öffentlich. Jede Kammer tritt auf dem Antrag ihres Präsidenten oder von zehn Mitgliedern zu einer geheimen Sitzung zusammen, in welcher dann zunächst über diesen Antrag zu beschliessen ist. (兩院の會議は之を公開す。各院は其の議長又は議員十名の請求に基き秘密會となす。然る時秘密會に於ては先づ右請求の當否を議決するものとす。)

之に相當する佛蘭西憲法の規定を記せば左の如し。
Les séances du Sénat et celles de la Chambre des députés sont publiques. Néanmoins chaque Chambre peut se former en comité secret, sur la demande d'un certain nombre de ses membres, fixé par le règlement. (元老院並に代議院の會議は之を公開す。但し各院は議事規則の定むる一定数の議員の請求に基き秘密會となすことを得。)

(極月十二日誌)

經濟學の科學的性質の變遷(下)

大矢知 昇

第三章 倫理的意味に於ける富の

觀念の發達

フイデオクラシイの價值學說より信任は富なりとの見解に至る迄既述の如く富の觀念は漸次非唯物的となりたり。其間實に一世紀半、其進歩、向上顧り見て驚かざるを得ず。其向上の結果は、足地上に存するも頭天に達する彼のヤコップの梯子の如し、富の觀念の唯心化は此くの如くして來り、尊嚴化は此くの如き路を辿りて漸く達せり。

然れども虚心坦懷其發達の跡を尋ね、其向上進歩の路を辿らば、吾人の呼びて唯心化となし

たるもの、非唯物化と認めたるものは、物理的意味に於ける唯心化に過ぎざるを知るに至るべし。物理的意味に於ける富の觀念の唯心化を目して直ちに倫理的意味に於ける唯心化と爲すこと能はず。物理的意味に於ける富の觀念の唯心化が倫理的意味に於ける唯心化と關係なきは尙物理的變化の倫理的變化と等しからざるが如し。固形體を液體となす既に驚歎に値す。況んや液體を瓦斯體、發光體となすに於いてをや、是等の現象は或は衆人の賞讃を博するやも知れず、然れども此等の現象は物理的意味に於いて有意義なりと云ふに留まりて他に何等の意味を有するものにあらず。吾人の富の唯心化と呼びしものは全くこれと等しきと云はざるべからず吾人の一百五十有餘年の努力の結果齎らしたるヤコブの梯子は惡魔之を用ふるも許し、天使これを用ふるも可なり。價值の觀念が欲望及信任に存するとするも、其欲望、信任も倫理的意

味に於いて惡き目的を有するやも計られず、かくては眞の意味に於いて富の觀念は唯心化せりと云ふこと能はず、倫理的の見地よりせば、其の富に關する觀念が土地を根據とするも可なり勞働を基礎とするも關せず、只關する所は其觀念が果して倫理化せりやの問題のみなり。此處に於いて問題は轉じて富の觀念は其れの物理的意味に於いて唯心化せるが如く倫理的意味に於いて唯心化せりやの點に至るものなり。

是等の現象は或は衆人の賞讃を博するやも知れず、然れども此等の現象は物理的意味に於いて有意義なりと云ふに留まりて他に何等の意味を有するものにあらず。吾人の富の唯心化と呼びしものは全くこれと等しきと云はざるべからず吾人の一百五十有餘年の努力の結果齎らしたるヤコブの梯子は惡魔之を用ふるも許し、天使これを用ふるも可なり。價值の觀念が欲望及信任に存するとするも、其欲望、信任も倫理的意

味に於いて惡き目的を有するやも計られず、かくては眞の意味に於いて富の觀念は唯心化せりと云ふこと能はず、倫理的の見地よりせば、其の富に關する觀念が土地を根據とするも可なり勞働を基礎とするも關せず、只關する所は其觀念が果して倫理化せりやの問題のみなり。此處に於いて問題は轉じて富の觀念は其れの物理的意味に於いて唯心化せるが如く倫理的意味に於いて唯心化せりやの點に至るものなり。

も絕對と相對との關係なり、彼のガンス・ルダッシーが其著『經濟的勢力』に於いて云へる句は此れを示す。曰く、

Die Philosophie hat mit einem absoluten Werthe gearbeitet, in der Meinung, dass ein solcher möglich sei; ihr war das Gute das absolut Werthvolle, das Schöne das absolut Werthvolle, das Wahre das absolut Werthvolle. Die Oekonomik fasst allen Werth als relativen auf, sie tauscht sich nicht über die Beziehung von jedem Werth = vollen zum menschlichen Behagen, zur geistlichen Vermehrung der Wohlfahrt, zum relativen Glück. Gans = Ludassy, Die wirtschaftliche Energie. S. 75.

『經濟學の價值と倫理上の價值が相關連してこそ初めて眞正の説明を得べきものなり』この言は明かに此間の眞相を洞破して餘りあるべし。(註一)然れども倫理學が經濟學ならざる如く倫理的價值は經濟的價值とは同一物にあらざるなり、前者の價值は獨立的、絶對的なるも後者の價值は依賴的、相對的なり、是れ兩者の重大なる相違なり。哲學的價值と經濟的價值との關係

も絕對と相對との關係なり、彼のガンス・ルダッシーが其著『經濟的勢力』に於いて云へる句は此れを示す。曰く、
Die Philosophie hat mit einem absoluten Werthe gearbeitet, in der Meinung, dass ein solcher möglich sei; ihr war das Gute das absolut Werthvolle, das Schöne das absolut Werthvolle, das Wahre das absolut Werthvolle. Die Oekonomik fasst allen Werth als relativen auf, sie tauscht sich nicht über die Beziehung von jedem Werth = vollen zum menschlichen Behagen, zur geistlichen Vermehrung der Wohlfahrt, zum relativen Glück. Gans = Ludassy, Die wirtschaftliche Energie. S. 75.
經濟學の研究の對象となるものは經濟上の die Güter (善の複數にして財を意味す)にして倫理學の對象は倫理上の das Gut (善)なり、經濟學研究の對象となす財の字義より見れば此等兩

者の關係を知ることを得べし、英語にて財なる語は Goods にして倫理上の善 (Good) の複數なり。佛國に於いても善は bien なる語にて示し財は其複數たる biens なる語を以つてす。獨逸語の Das Gut (善) と die Güter (財) の關係、若しくは伊太利語の bene (善) と il bene (財) との關係等此等兩者の性質を語るものなり。經濟學の對象とする財は倫理學に於いて善の複數なり、如此き兩者の字義より見るも一致せるは經濟行爲も亦 *eterna* なることを示すものならん。英の文豪ラスキンの言亦妙味なしとせず、彼れは曰く。

There is no wealth but life and nor can any noble thing be worth except to a noble person.
 此言簡なりと雖も明快克く此間の消息を傳ふるものなり。蓋し天才彼れの如きものにして初めて洞破することを得べき所ならん、此意を更らに詳細に敷衍して經濟學の目的を定めたるもの

濟社會發展の *treibende Kraft* を心理上に求むることを得べしと信するものなり。然れども予は組織の力を無視するものにあらず、蓋し經濟行爲は *Seele* と *Körper* とより來るものにして *Seele* とは其行爲の動力たる人間の心理を意味し *Körper* とは精神の活動する組織 (經濟組織) を意味す。故に前者の存せざる所に後者の存すること能はず、後者の助なくして前者の活動を望むこと能はざるが故なり。然れども予は彼の *シマン* 氏が *Année sociologique* 誌上に於いて主張せるが如き態度を採るものにあらず。彼れは曰く。

L'esprit capitaliste ne naît il pas du capitalisme beaucoup plutôt que le capitalisme ne naît du lui?

此問題は固より *das Ei oder das Huhn* の問題にして至難の問題なり。然れども人なき所社會なく、社會なき所社會組織従つて經濟組織なき

に *セリマン* 氏あり。彼れの言に曰く。
The real object of economics is to explain the process of making wealth cheap, and man dear. Seligman, *Principle of Economics*. p. 15.
 此言經濟學者の探つて以つて箴規するに足る。亦た敢て、予の泥團を弄することを要せざるべし。

註一 福田博士著『改定經濟學研究』六七二—七〇一頁參照)

第一節 經濟行爲の動力としての快樂の欲望

經濟的行爲は理性的行動 (*Vernünftige Handlung*) なり、すべての理性的行動は目的を有するものにして盲目的、若しくは因襲的なるものにあらず、されば經濟行爲とは一定の目的を有し、此目的を遂行せんとする一定の努力、行動を意味するものなることは上述の如し。故に予は經

は自明の事なり、故に一定の經濟行爲及其行爲のよつて以つて活動する經濟組織も一定の人間心理より發したるものなることは否定すること能はざるなり。否百歩を譲りて然らずとするも一定の時代を限りて其時代を支配する精神を抽象して考ふることを得べし。*ゾンバート* は此方法によりて *Der moderne Kapitalismus* 二卷の研究に従事せり、(彼れに反對するものが彼れの此著に試みし方法は單に *Rodbertus-Bucherschen Theorie von oikos autarkes* を心理上より騰寫 (*Psychologische Umschreibung*) せしむることを云へる言も此書が心理上に發達の *treibende Kraft* を求めし事を證するものなり) 或亦彼の有名な *ランペンハート* は其著 *Deutsche Geschichte* 十六卷を通じて此精神にて研究せり、彼れは亦其著 *Moderne Geschichtswissenschaft*. Freiburg. 1904. (英譯あり *What is History* とは其書名なり) に於いて心理上より歴史の必要を主張したり。予

は固より盲目的に是等の主張に賛同するものに
あらず。蓋し、ゾンバルトが『最近資本主義論』
の種本とも見るべきロードベルトス及ブッヒア
の歴史發展の學説は既に *Geschichte der Alier-*
tum の著者たる Edward Meyer 及 Griechen
Geschichte の著者たる Julius Beloch 兩人によ
りて打破せられ、或又歴史の發展を五期に分ち
(一)象徴時代(二)模型時代(三)假設時代(四)個
人時代(五)主觀時代(獨乙史と最近歴史科學八
八頁参照すべし)と爲したるランプレヒトの説
は極端に心理的なれば予は悉く賛せざるなり然
れども予は心理的基礎の上に其行動の *treibende*
Kraft を求め或又 *Leitmotive* を求むる事を得る
と信するものなり。

此見地よりして予は經濟行爲即財を得んと欲
する行爲の基礎となる人の精神(欲望)を分類
して吾人が富を獲得せんとする動機を明かにせ
んと欲するものなり、而して第一の精神的の動

機即欲望を求めて快樂を爲んとする欲望に得た
り。此欲望が其人の經濟行爲の動力となるとき
は全然利己主義を脱すること能はず。是れ此の
欲望が倫理的意味に於いて最も卑しきとせらる
る所以なり。快樂を得んとする欲望が經濟行爲
の動力なれば如何に其欲望が大なりとするも結
局其欲望は有限なり、欲望有限ならば經濟行爲
は有限にして従つて其經濟社會は有限經濟社會
なり。されば此くの如き欲望を基礎とせる社會
は人と人との接抄より生ずべき餘剰なき社會な
り、否な餘剰ありとするも其の餘剰は『勞働行
程』より生ずる餘剰にして『價值付けの行程』
に於ける餘剰にあらず。人と物との關係より生
ずる餘剰のみ存する所なり。換言すれば技術的
餘剰のみ存する社會なり。ゾンバルトは『要額
充當の法則によりて支配せらるる社會』と名付
け *Bedarfs* (資本論五頁より六頁迄を見よ)なる
語にて其性質を説明せんとせり。

gegebenen Bedarfsstand. a. a. O. S. 135

功利主義的見解を以つて經濟學を研究せんと
するものは正に此言に感銘すべし。

第二節 經濟行爲の動力としての

權力獲得の欲望

シモン・スターは其著 *Theorie der wirtschaftli-*
chen Entwicklung に於いて如此社會を *hedonisch*
なる語にて示さんとせり。シャルル・ブーロワは
desir de la richesse sur la jouissance 若しくは
richesse = jouissance (經濟原論五四頁参照)なる言
語を以つて此社會に於ける經濟行爲の動力を説
明せんとせり。ゾンバルトの言と予の言とは外
面上より見れば異なる如きも高處に立ちて大觀
すれば其踏み分くる道は異なるも同じ高根の月を
見るなり。殊にブーロワ及シモン・スターに至りて
は予の言と韻を同じくするものなり。多くの學
者の看做して靜的社會と爲すは正に此社會也。
フイリツポウイツチの所謂 *Kreislaut* にて説明
せし社會なり、限界效用を以つて經濟學の本陣
とも云ふべき經濟價值論を説かんとするものは
此當時の經濟現象に對してのみ其適用を見るな
り。シュ氏曰く。

Das Gossensche Gesetz gilt zunächst für einen

快樂を得んとする欲望を經濟行爲の動力とな
して説明することを得る社會は過去の社會なり
臚を得ば獨を望む現代經濟社會はこれによりて
説明すること能はず。故に予は此社會の中心を
爲せる精神を他に求めたり。曰く『經濟行爲の
動力となるものは權力獲得の欲望なり』と、此
欲望存して初めて近代社會が生じたるなり、否
此の欲望を動力となすことによりて初めて近代
社會を解剖し、理解することを得べし。而して
權力獲得の欲望とは富を得んとするの動機が物
及人に對する命令權及指揮權を有せんとするに
あるを云ふなり。今日の多くの人は此欲望より
して富を得んとするものなり。否少くとも富者

の多くは此動機に其經濟行爲の中心を求むるなり。今日米國に於ける鐵道王、石油王、製鐵王の富獲得に對する意思と中世紀に於ける貴族のそれとを比較せば其の差の大なること思ひ半ばに過ぐるものならん。彼の中世紀に於いて貴族たるワールウィック家が廣大無比の庭園を有し、賓客に饗應せんが爲めに二萬の食膳を用意したりと聞く。これ蓋し中世紀の思想を語るものならん。カーネギー氏の思想との相違驚くべきものあり『福音書』に羅馬の百人長が基督に告げし一句あり曰く『我れは多くの人の長なり。予が一兵隊に對して彼方に去るべしと命令せば彼等は予の命に従ふ、亦他の一隊に此處へ來るべしと云へば彼等は言下に之れ従ふ。予の一舉手能く彼等を動かし其一投足克く彼等を服従せしむ』とあり。今日大なる富を有するものは羅馬の百人長よりも偉大なる權力を有せり。彼れ左を指せば百衆之れに應じ、彼右に招けば百衆之

れに従ふ、彼れの意の赴く所衆和せざるなし。これ何によるか、彼の智識一世に冠たる所以にあらず、彼の人格人の師表たるに値するが故にもあらず。畢竟するに是れ全く其擁せる富の權力の致す所なり。されば富愈々大となれば權力愈々大となるなり。此處に於いて權力を得んとするものは先づ富を得ん事を欲す、而して其欲望は有限的性質を有せず、無限なり。欲望無限なれば經濟も亦無限なり。かくて又此行爲を中核とせる經濟社會も亦無限なり。而して此無限經濟社會とは資本主義の社會と云ふと同工異曲なり。資本主義的社會とは資本的企業を中心とする社會なり。而して資本的企業は餘剰ありて初めて成立することを得るものなり。資本主義的時代を營利經濟時代と云ふはこれを示すものなり。既に營利と云ふ餘剰を意味し、無限を語るものなり。かくの如くして遂に營利は手段なる位置より單脱して目的となるに至れり *trivert*

als selbstzweck とはこれを語るなり。而して此くの如きに至るは其根底に權力獲得の爲めに經濟行爲を爲さんとする欲望存するが故なり。シユンペーター既に云へり、曰く。

Während das wirtschaftliche Handeln in Folge es auf dem Wunsche nach sozialer Machtstellung beruht, noch Diener eines ausserhalb seiner selbst gelegenen Zweckes erscheint, es soll nur gezeigt werden, dass es auch Selbstzweck sein kann. a. O. S. 141.

予の意見に對する有力なる裏書を看做すことを得べし。彼の有名なるゾンバルト其著 *Der Bourgeois* に於いて近代經濟人の精神上の特色を擧げ四個となせり。曰く。

1. Das sinnliche Grösse.
2. Die rasche Bewegung.
3. Das Neue.
4. Die Machtgefühl. (同書二二二頁参照)

と前述のシユンペーターの言と比較對照せば自ら悟る所あるべし。シユ氏が云へるが如く *Machtstellung* が中心となるが故に其經濟は營利經濟と云ふ事を得べし。シユンペーターは *Verwertungsprozess* にならむ *Verwertungsgemeinschaft* なる語を以つて此時代を説明せんとせり。蓋し *Wirtschaft* の意にして『價值付けの行程』に於いて餘剰價値を生ずる現代社會を説明するに適せり。此社會にして初めて餘剰を見從つて初めて經濟上の『發展』を見るなり。發展とは外界刺戟なくして經濟生活其れ自身の内部に起りたる變化を云ふ此發展存する處に初めて動的社會を見るなり。シユ氏の言之れを語る、曰く。

Unter "Entwicklung" sollen hier nur solche Veränderungen des Kreislaufs des Wirtschaftsbens verstanden werden, die die Wirtschaft aus sich selbst herans zeugt, nur eventuelle Verände-

zung der "sich selbst überlassen," nicht von äussern Anstoss getriebenen Volkswirtschaft. a. a. O. S. 103. (註1)

此の社會をシ氏は Erwerbswirtschaft 云々のシニ氏は energische なる語を以つて其性質を語れり。此くの如き經濟社會を説明せんとして福田博士は循環定式による經濟學を捨て、流通論を出されたるなり。其先見の明、驚歎に値すべし。予の意のある所を披瀝せば功利主義を基礎とする經濟學を捨て、創造主義(生々主義)を根底とせる經濟學に進まざるべからずと爲す。蓋し彼の欲望を不足の念及之れを除去せんとするの念よりなりと定義し以つて是れを經濟學の基礎たらしめんとするは技術論としての貨幣を以つて現代經濟社會を説明せんとすると等しく誤謬なるが故なり。 Sie hat ihren Ursprung in der menschlichen Natur, und zwar in den Bedürfnissen, d. h. der Empfindung eines Mangels, ver-

runden mit dem Wunsch ihn zu beseitigen. Fuchs. Volkswirtschaft = Lehre S. 5. 現代の經濟社會は未だ以つて彼の Milienheorie der Entwicklung によりて完全に説明すること能はず。或又經濟の發達は欲望の増加、人口の増加、資本の増加によるものなりとの見を取る彼の Wachstumsheorie der Entwicklung によりても完全に説明すること能はず。餘利を生命とせる企業を中核とせる現代の資本主義はこれ等によりて説明すること能はざるなり。貯蓄ありて經濟生活の進歩あるにわらず、經濟の進歩、發展ありて貯蓄生ずるなり。此れ議論の本末を顛倒せるものなり。貯蓄は原因にわらずして結果なり。彼のフロレンスの商人(織物商人)にして Del governo della famiglia の著者たる L. B. Alberti の所謂 Masserizia の思想が社會化した Ausgabewirtschaft への Einnahme = Wirtschaft 既に進みたる現代營利社會に於いて、若しくはハルツ

ソンの所謂 homme ouvert が支配せる社會より出でて homme clos によりて支配せらるること久しき社會に於いて或又 secundum suam conditionem の觀念より蟬脱し聖トマスに反して、secundum suae virtutis を叫びたる Caietanus の思想が客觀化せられて homo capitalisticus 生じて既に久しき社會に於いて。換言せんか彼の Die Rationalisierung der Wirtschaftsführung 及び Ökonomisierung der Wirtschaftsführung を基礎として營利を營む現代社會に於いては、シニ氏の所謂『發展』を見る現代社會に於いては單に Sparen なる觀念のみによりては説明すること能はず。我國經濟の不振を論ずるものは皆異口同音に資本の缺乏に原因を求め。而して之を國民の貯蓄のみによりて補はんをせり。此くの如き論者は予が權力獲得の欲望を動力として説明せし現代經濟社會を解せざるものなり。若し此種の學者にして世の人をあげて Liebe Interesse の

潮流にありし時 Sacta Cosa la masserizia を唱へたるフロレンスの一毛織物商人を想起せば自ら報慚之れを久しくする所あらん。歐洲戦後の日本の將來を論ずるものは之れを考へざるべからず。予は既に現代の經濟行爲の動力たる心理を抽象して『權力獲得の欲望』と云へり、シニ氏亦同意見を發表す。曰く。 Wir finden deren zwei: Die Freude an sozialer Machtstellung und die Freude an schöpferischen Gestalt. a. a. O. S. 138. 或又チーニ氏も云へり。 C'est généralement sous la forme de revenu que se présente l'aspect de la richesse-puissance Gide p. d' E. P. p. 54. 予の説の「獨斷なることを知るべし。蓋し rich (richesse) なる語は權力を意味するものなり彼の獨乙語の Reich (富)は Reich (帝國)を意味するによりても知るを得べし。」

此處に於いて説明せる欲望は前節の欲望に比せば倫理的意味に於いて稍優れるものなり。然れどもこれ亦一種の自利心より出するものにして之れを倫理上より見て最高なる欲望となすこと能はざるなり。蓋し此意味に於ける自己の擴張は他人の壓迫を意味するが故なり。

(註二) 福田博士著『經濟學講義』四九一(五〇頁参照)

第三節 經濟行爲の動力としての

義務心

資本主義の社會とは創造的進化(經濟生活自身に於いて)ある社會を云ふなり。貨幣及技術の働きによりて其初め因襲主義を打破して大いに自由を叫びたる資本主義も亦是等兩者の發展の爲め合理主義を失ひ再び因襲主義に陥りたり主と格とは其地位を代へ、手段が目的の如くなるに至りたり。ニーチュの *umwertung aller werte* とは蓋し此状態を示すに適する言葉ならん、ゾンバルト既に云へり。曰く。

Abermals im Zusammenhang mit dieser Neubildung von Werten steht eine andere bedeutsame Erscheinung im Geistesleben des modernen Wirtschaftsmenschen (wie Menschen überhaupt): Die Erhebung des Mittels zum Zweck. Der Bourgeois, S. 426.

合理主義より出でて因襲主義に陥りたる資本主義は再び合理主義に還らしめざるべからず、若しくは新たに合理主義を標榜せる他のものに其の地位を譲らざるべからず。

新時代の曙光を稍地平線上に認むることを得べし。而して予は此時代より抽象せる欲望を義務の觀念に得たり。然れども此觀念が現代の經濟行爲の動力を爲すものなりと云ふと能はず、然れども營利社會なる今日に於いて此處彼方に此觀念の存することは否定すべくもあらざるなり。彼の勞働保護、及郷關保護等は是等を語るものなり。ロックフェーラ氏が一億八千萬弗以上

及カーネギー氏が三億數千萬弗を學校、公共事業、國際平和協會等に寄附せし等は此傾向の一端を示すものなりと信するものなり。

今日を去る少し以前に於いては溫穩にして博學なる學者も貧はさぐる事能はざるものとなし (*la misère est un mal nécessaire*) と云へり、然るに現今にては此語を繰返す人を見ず。貧はあらゆる弊害、罪惡の源泉なりと認むるに至れり、彼等は異口同音叫んで曰く。 (*la misère est le redoutable enfer*) なり、と。世界の中に貧者を見ざるに至る時現出するやも計られずと眞面目に考ふるもの生じたり。今日の外國に於ける勞働者の状態を見れば此の言葉の奇想的ならざるを知るに足る。古今思想の變遷一考に値する所なしとせず、今日多くの人の呼びて *associations sans but lucratif* と云ふ相互救濟組合と呼ぶものは如何。是等は利潤を目的とするにあらず、他人の爲めに務めんが爲めなり、換言すれば彼の佛國

學者の所謂 *la service de autrui* を目的となすものなり。其理由に曰く、富及價值を全然自己のものなりと云ふこと能はず、蓋し價值は社會の創造せしものにして個人のみを以つて來るものにあらざるが故なり。と、

予は富の獲得の動機が此程度欲望を基礎とする時代に至りしとき倫理的意味に於いて最上の階段に達したりと云ふことを得べしと信するものなり。而して來るべき將來に於いて此くの如き傾向を見るべしと信するものなり。彼のゾンバルトは其著『最近資本主義』に於いて經濟發展の階段を四期に分てり、(一)農業的封建組織の時代。(二)手工業的組織の時代。(三)資本主義的時代。(四)社會主義的團體組織の時代(註一)とせり、此の區劃によるも明かに予の見と相去るの遠からざるを信するものなり。

果せるかな、近時獨乙の經濟組織を論ずるもの、語を見るに戦後の同國の經濟組織は今日の

如く軍國化せられつゝ進むならんと云へり。彼のヤフエー氏の如きは其代表人物にして、彼れが『社會科學及社會政策雜誌』に寄稿したる意見を見れば略其消息を窺ふに足るべし(註二)彼れは今後に於ける獨乙經濟精神を語りて曰く、『新經濟生活の心理的動機は舊經濟生活(資本主義)の如く、營利の觀念にあらずして『義務』(Pflicht)の觀念なり』と。此意見を更らに強く鋭く眞摯なる態度にて主張したるものはゾンバルトなり。彼れは今次の大戦亂に際して愛國的論文『商人と武士』を出したりと聞く。此論文にて彼れは今度の戦争は一面よりは權利の主義を基礎とせる商人と義務の主義を基調とせる武士との事なり。他面よりは實利主義と理想主義との争なり。而して獨乙の使命は滔々たる商人の世界觀を打破せんとするにありと云へり。彼れゾンバルトが此言を爲す謹聽を値するものなり。何とならば彼れは *Der Bourgeois* の著者

なればなり。此書は大亂突發の前年たる一九一三年に上梓せられたものなり。而して彼れは此書の第二編に於いて *Bürgerzeit* を論述し此町人精神の資本主義に貢獻せしことを力説せり。然るに彼れは此 *Die fürgerlichen Jugenden* と *Die Rechenfaltigkeit* とを『町人根性』と賤してゲーテ、ヘーゲル、シヨペンハウエル、トライチケ、ニーチエに依りて代表せられたる英雄的精神が今後を支配せんことを力説せり。如此き意見の變化を變節改論の惡名を附して葬り去るべきにあらず、或又愛國心の發露以外何物をも語らずとて蔑視すべきにあらず。佛人たるデー氏も如此見解を近時發表せり(註三)ヤフエー、ゾンバルト、デーの言と余の見解との相去ることの遠からざるを知るものなり。

如此く富獲得の漸次倫理化せられて遂に最高最重なる倫理的階段に達せんとしつゝある事は注目に値すべしと信ず。

富が其自身目的となりつゝある現代資本主義なるものは決して吾人の理想にあらざるなり。人重きか富重きかの状態は吾人の倫理生活と吾人の經濟生活との矛盾を示すものなり。現代社會の缺陷は此處に存し、現代人の煩悶は此間より生ずるものなり。其志救民にあるもの、靜思を要する所ならん。今日の如く『價值顛倒』せる社會は過去の歴史の示さざる所なり、然れども人の社會は此くの如くして終るものなりと信ずること能はず。少くとも過去に於いては此くの如き状態にあらざりしなり。歴史の示す所によれば *usus pecuniae est in emissione ipsius* なる聖トマス思想行はれし時ありしを知る、或又『人は萬物の尺度なり』との思想を基として經濟生活を成し、其結果して *prout sunt necessaria ad vitam eius secundum suam conditionem* の制度行はれて『食糧の精神』(*die Idee der Nahrung*) によりて支配せられたる時ありしを知るなり。

或又 *Mutuum date, nihil inde sperantes* の思想よりして有名なる *ius usura* が發したる時もありしなり。或又甚だしきに至りては *Korpus Juris Canonici* の思想 *Merito dictum negotium, quia negat otium, quod malum est, neque quieti veram quietum, buae est Deus* の行はれし時あり。近くは *Die Idee per standesgemässigenunterhalt* の思想を中心とせる『坐』の制度を見たることあり或又 *Justum pretium* とて宗教の教理を基礎として經濟的價值を定めんとしたる時あるを知るものなり。固より此等の社會にては人格の自由なかりしは事實なり。然れども少くも富は手段にして人は標準尺度なりとの思想に依りて支配せられしものなること明かなり。

吾人は今直ちに中世紀に現世を還らしめんとする保守的復古論者にあらざるなり、寧ろ進みて貴重なる動機よりして富の獲得を望むに至ることを豫期するものなり。固より富そのものは

卑しきものにあらざる。卑しきとなすは其用途如何にあり。貴きも卑しきも其使用の目的の如何によりて定まるものなり。其富を得んと欲する動機にして高尚ならば、其富は尊きに至るなり。然らざる場合に於いては其富は卑しくならんとす。碩學マーシアル曰く。

Here, as elsewhere, we must bear in mind that the desire to make money does not itself necessarily proceed from motives of a lower order, even when it is to be spent on oneself. Principles of Economics, p. 22.

現代産業の特色を競争にあらずして deliberateness にありとせる同氏に此語ある怪しむを要せざるなり。經濟學の人の富とに對する了解は此くの如くなるべし。

(註一) シンネル著『最近資本主義論』序文三十一頁より三十二頁迄参照

(註二) 藤澤謙吉著『第一卷第三編小川博士「個人主義の発展」』

Die Wirtschaft der Gegenwart unterscheidet sich von der der Vergangenheit einzig und allein durch den Grad der Vollkommenheit der Hilfsmittel, nicht aber durch Veränderung der Methode des geistigen Prozesses der wirtschaftlichen Arbeit. Im letzterem ist der moderne mensch vielmehr wesensgleich mit dem der Vergangenheit. Geschichte und Theorie des Kapitalismus S. 377.

或又經濟行為の動力は ökonomische Sinn にありと爲し、或は egoismus に存せりと爲すが如きは予の遺憾ながら探ること能はざるの所のものなり。社會生活も經濟生活も常に變化發展するものなり。吾人の exist なる言葉を嚴格に哲學的に解すればこれは畢竟するに change を意味するなり。(註一) 予は上述の富に對する觀念の變遷を述べ、最後に經濟學と人との關係は想起せばセリグマン氏の言を擧ぐるの要を悟るも

化』及同上誌上神戸博士『獨逸の戦時經濟組織』參照

(註三) シーン La guerre et la question Sociale. Revue Internationale de Sociologie. Mars. 1915. 參照及經濟論叢第一卷第一號米田氏『戦争と社會問題』參照

第四章 結論

富の觀念の發達を見るに既述の如く、物理的意味に於いては四階段を経て向上せり。而して富を求むる動機を倫理上より見れば三階段を経て進歩せんとするものなり。而して此心理的動機の變化はやがて其の心理を動機とせる經濟組織の根本的變遷を語るものなり。經濟生活は此くの如き進歩を爲したり、而して此經濟生活を統一的に説明せんとせる經濟學も其經濟生活の變遷につれて變遷するものなり。故に予はブルソビの如く經濟生活の心理的動機は今も昔も質的相異なしと爲すは予の探らざる所なり。彼れ曰く、

のなり。彼れ曰く、

For, after all, it is not the wealth itself, but the human beings who create and who use the wealth, that are of fundamental importance. What a man does with his wealth is a vital question: for upon the answer given to this question by society as a whole depends the growth of future wealth itself. Seligman. P. of E. p. 14.

けに富は客體にして、人は主體なり。前者は目的にあらずして目的を達するに要する手段なり故に Mensura Omnium rerum homo の思想が復活して經濟生活を支配するところあるを信ずるものなり。然れども其思想が宗教の教理より生るゝを望むにあらずして人の熟慮の結果生るゝものたるべきは勿論なり。換言すれば個人の人格を無視して神の意思に何物をも歸せしめんとする中世紀の如き内容を有せる思想にあらずしてランプレヒットの所謂個人時代を経て主觀時代

に達し人間の意思に萬事を求めんとする内容を有する思想なり。中世紀と現代とに於ける此語の形は等し、然れども其内容に至りては天地霄壤も管ならざるなり。前者に於いては個人を認めず只神ある時代の *Mensura Omnium rerum homo* の思想なり。後者に於いては個人の人格を認めたる時代の思想なり。此思想が生ずる時に於いて初めて人は *être raisonnable* と看做され人の *sein* 其のものが *welt* を意味するに至るものなり。されば此思想の復活(嚴格なる意味に於いて云ふにわらず、形に於いて復活と看做し得べきも其實新たに生れたるものと看做すを可なりと信ず)は今日多くの進歩せる經濟學者の主張せる社會權中の最高最難の問題たる生存權の問題に多大の光明を與へ、此問題の解決を容易ならしむるを得るならん(社會權とは生存權、勞働權及勞働全收權の三種を名付けて此くの如く云ふなり、此の權利に關しては福田博士著の

『續經濟學研究』に詳述しあり、第三權たる勞働全收權 (*Le Droit au produit intégral du travail*) の主張はマルクス既に之れを力説し盡せり、第二權たる勞働權 (*Le Droit au Travail*) は目下(殊に戦争前迄)歐洲に流行しつつあり、而して最重にして第一權たる生存權 (*Le Droit à l'existence*) は將來解決を要すべき問題なり。而して今日生存權問題が多少眞摯たる態度にて論議に上り、最底賃銀の實行を見るに至りしは一面此思想が資本主義の裏面に或一種の力を有することを語り、他面に於いて資本主義の重要な部分が失はれんとしつつあるを語るものならむ。其内容こそ異りけれ其形等しき *Mensura Omnium rerum homo* の思想が中世紀に生じたりし時には人々の生存權は確保せられたるにわらずや。Die Idee der Nahrung の思想は此思想を基礎として發したりし事何人も疑はざる所なり。今日の生存權と其當時の *Die Idee der Nahrung*

と果して幾何の相違あるや。更らに此『食糧の精神』の思想が *Die Idee des standesgemässigen unterhalt* より生じたるを知らば『人間らしき存在』(*Das menschewürdige Dasein*) を基調として主張する今日の生存權と果して幾何の差異あるや。殆ど同工異曲なるを知る。然れども予は此等の思想が彼の宗教の拘束の下に起らしめんと欲し、若しくは生ずべしと信ずるものにあらず。

予はヘーゲル學派のものにあらず。或又ルソー一派の如く革命的自然法を信ずるものにあらず。さりとして又スコラ學者の説く自然法を信ずるものにあらず。予の『義務の觀念』とヤフエーの *Leistung* とチーアの *Le desir de la service autre* とを比較對照するときに其間に妙味を發見するべし。人間の本體を明快に示せるものは *Salairé et Droit à l'existence* の著者ライアンなり、彼れは昂然として曰く。

Bref, chaque individu est un fin en soi et a une personnalité propre à développer par l'exercice de ses facultés. Salaire et Droit à l'existence. p. 47.

哲人カントは *mensch als Selbstzweck* なる短言を以つて克くライアンの言へる所を説けり。今や人は此語を知ること往時の人に比して深く且つ廣し、而かも人々の多大の思慮と時間を費さしむる經濟生活は *Erwerb als Selbstzweck* なり、是れ人生の矛盾事にあらずるや。最後に凱歌を擧ぐるもの果して前者なるや、後者なるや予の前言は東西の方角に迷ひ朝暮の時刻を誤り旭日の昇るを見て夕陽の沈むものと認むるの類ならむや謹で識者の是正を待つ。(終)

(註一) マルグソン著『創造的進化』(英譯による) 七頁 參照